

水害の原因 被害状況 体験談

2025 (令和 7) 年 9 月 17 日、11 月 4 日の鍛冶屋町自治会館での聞き取り調査に基づき作成
※その他の参考文献：地券取調総絵図 近江国浅井郡第二区鍛冶屋村、ゼンリンの住宅地図 東浅井郡 [71]、長浜市住宅案内図 [77]



被害概要 1959 (昭和 34) 年 伊勢湾台風

伊勢湾台風当時の草野川の様子

- 伊勢湾台風当時、草野川の川幅は現在よりも狭く、瀬と淵のみられる小川であった (図中の赤点線が現在の草野川の護岸である)。

伊勢湾台風の雨の様子

- 9 月 26 日の昼頃から雨が降り始め、18 時～21 時頃にピークを迎えた。草野川とその支流 (嶺上谷川・指南谷川) の増水により、草野川両岸に浸水被害が発生し、27 日の早朝まで続いた。

橋の流出

- 草野川では上流から橋が流失し、鍛冶屋町では鍛冶屋橋と嵯峨山橋が順に流失した。

水害の原因 1 草野川両岸の沿岸

降雨による草野川の増水

- 豪雨により、草野川の水位が上昇し、草野川両岸の沿岸が浸水した。

鍛冶屋橋の閉塞による草野川の溢水

- 上流から流れてきた流木が、鍛冶屋橋の左岸側の橋脚に引っ掛かった。
- 流木により、川が堰き止められ、草野川の水位が上昇した。
- 川の水があふれ、鍛冶屋橋上流の右岸側に氾濫した。
- 水の勢いに耐えられず、鍛冶屋橋が流出した。(写真 1)

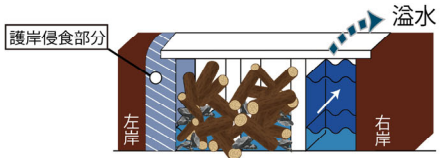


図 1 鍛冶屋橋の被害イメージ

- 鍛冶屋橋に引っ掛かっていた流木が下流へ流れ、再び草野川の水も流れるようになった。
- 徐々に草野川の水位が下がり、鍛冶屋橋上流の右岸側の氾濫水が引いた。



写真 1 被災後の鍛冶屋橋 (左岸側から撮影)

嵯峨山橋の閉塞による草野川の溢水

- 上流から流れてきた流木が、嵯峨山橋の左岸側の桁下に引っ掛かった。
- 左岸側の桁下がふさがれたことにより、草野川の水位が再び上昇し、川の水の流れがすべて右岸側の桁下に集中した。
- 水の勢いに耐えられず、右岸側の護岸が削られ、侵食された。

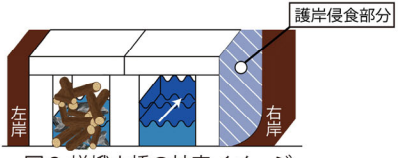


図 2 嵯峨山橋の被害イメージ

- 護岸侵食された部分から水が流れるようになったことにより、徐々に草野川の水位が下がった。



被害状況

鍛冶屋橋左岸 下流の護岸

- 草野川の勢いにより、鍛冶屋橋左岸の下流部にあった宅地が侵食された。
- 草野酒造の酒蔵が流失した。



写真 3 鍛冶屋橋下流左岸の護岸侵食被害の様子

嵯峨山橋左岸 下流の護岸

- 護岸が石積みではなく土手であったため、侵食されてしまい、護岸沿いにあった道路が流失して通行不可能となった。



写真 4 県道 264 号の護岸侵食被害の様子

凡例 (伊勢湾台風襲来時)

河川	浸水範囲	土砂の流れ	床上浸水した家
侵食範囲	主な水路	氾濫水の流れ	床下浸水した家